

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0566
施設名	さつき保育園
施設所在地	八王子市大楽寺町 347-1
法人名	社会福祉法人報徳福祉会

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

コーナー遊び（ままごと）

<テーマの設定理由>

設定保育を主としてきた当園の環境がある中で、子どもが自ら遊びを選び、想像し、主体的に遊び込む時間も必要だと考えました。そこで、園のフリースペースを利用してままごとコーナーを設定しました。ままごと遊びを通して、何かになりきったり、再現したり、友だちと役割分担をしながらイメージを共有したり。それらを楽しむ姿が見られると共に、幅広い年齢でも楽しめる環境を作ることを目的として、こちらのテーマにしました。

## 2. 活動スケジュール

令和7年度を通して実施

- ①フリースペースに常設コーナーを設置
- ②グループ単位でのコーナー遊び
- ③子ども達の気付きやアイデアをもとに、コーナーを変更・拡大
- ④コーナー遊びの常態化

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

本物に近い調理道具、見立てたり想像が膨らんだりするようなシンプルな色や形の素材（食材）、視覚的に空間を分けるための敷物やパーテーション、天井を低くし柔らかく落ち着いた雰囲気を作る天蓋、観葉植物（自然物）、社会性を育む円形型のテーブル、身近な動物のぬいぐるみ、扱いやすい大きさや素材の人形、生活の場の中に存在する玩具、庭をイメージした運動遊具etc.

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

幼児は、生活体験遊びを楽しむ中で、友だちと関わり合い、相手の想いや願いに気付き寄り添うことや、互いに折り合いをつけ楽しむ方法を探求する。乳児は、様々な素材に触れながら感覚遊びや表現遊びを楽しみ、物の扱い方などを遊びの中で探求する。遊びの中で浮かんだアイデアを保育者や友だちに共有し、より楽しめる環境を探求しながら作っていく。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

観察を経て遊び始める様子や、友だちの行動や発言がきっかけとなり、遊びが変化していく様子、また、それぞれの生活体験がイメージと強く結びつき、遊びの中で表現される様子が見られた。当初は「これなに？」のような質問が多かったが、「何に見える？」「赤い食べ物、なんだろうね」「何かに似ている気がする」など、あえてイメージを膨らませる言葉掛けをすることで、固定観念がなくなり、子どもの自由な発想の中で遊びが展開されたように思われる。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

大人の願いと子どもの願いは異なることの方が多いかもしれないが、子どもの楽しんでいる姿を否定するのではなく、他者とともに生きていく中で気づいてもらいたいことを体験と結びつけながら繰り返し伝え、自分も相手も心地よく過ごすにはどうしたら良いのかを一緒に考えていける存在になりたいと思った。子ども達の発見やアイデアを「いいね」と受け止めながら、「『楽しい』を発見する力」を大切にしていきたい。